

弓原雜考

重文
洋学文庫
文庫8
A 51



179
118
103

弓原雜考

大槻文庫

とありしをあらわすの事又製作多岐なるを
と

津山守

西本兵衛源輝雄

後炮の事と南無(無)えをてつふの意なり
砲の御文系とて年記定本記室町殿に記
甲陽軍鑑光陰殿元
大永年中流りし事として
十三年に流るる事あり
記ありし事あり

全

あつた後出とありし事あり

伏竹考

桑山左衛門藤原
雄彦序述

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

伏竹考

藤原淑房述

古代志に老木有り初て木布合つて作製
作れども其の以て作製するに子以て作
製するに其の以て作製するに其の以て
作製するに其の以て作製するに其の以て
作製するに其の以て作製するに其の以て
作製するに其の以て作製するに其の以て

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

田村右九京大夫敬顯朝臣所藏之傳云賴
義朝臣至當國造了十萬張其竹採之
栗原郡末野村其地至今稱十萬坂此
蓋其一也

此了長ヲ一ハ七尺三寸五分一ハ七尺一寸七分
一ハ六尺九寸アリテ長短各別也

物より定まる
古代に定まる
軍中一竹より定まる定まるやん洋竹より定まる
七尺の寸と定まるは其身の寸と定まる定まるを
いふをいふことなり此竹は豊人の寸より定まる
寸より定まるは軍中此竹より定まるをいふこと
長短より定まる人類の寸より定まる

林子平曰僂身國甲よカマホコリと不
物より又十萬坂といふお傳よ秀徳
武備の爲に製竹は蘇所やと云カマホコリ
其形を圓く名つて蘇や蘇十萬坂の地名
や高嶺の竹よ十萬坂と云お傳時代
了と置て十萬坂を製しては十萬
了といふは製竹の了は外竹は了
合し内竹は了は雨前は了は不足水
中よ入るる竹は了は損傷事なり

此處説くは、梅とあり、祐乃説くは、
坂と栗原郡と、凡、林子平、高館、乃
下、十、若、坂、あり、い、ふ、忠、と、林、子、平、
誤、や、ん、を、言、館、と、盤、井、郡、や、れ、
捨、お、や、う、一、一、と、い、て、頼、義、朝、臣、乃
作、と、子、平、と、秀、衡、の、地、と、い、何、き、
古、俗、の、説、や、る、一、古、書、よ、い、し、目、之、
不、可、と、い、ふ、第、目、見、つ、ま、ま、と、い、し、
又、梅、の、頼、政、の、兵、庫、以、仲、正、乃、子、
嘉、永、之、年、よ、ま、ま、治、承、四、年、お、月

七、お、軍、よ、い、討、死、や、う、頼、義、朝、臣、
赤、江、と

後、涼、泉、帝、永、永、六、年、と、い、い、ん、康
平、の、年、近、中、二、年、の、月、や、ん、と、頼、政、乃
出、ま、よ、お、い、れ、お、十、年、斗、も、子、お、や、と、い、
此、の、と、い、ま、ま、い、お、い、お、い、と、い、
お、ま、と、い、い、の、着、う、お、い、時、や、る、池、一、
頼、政、乃、の、事、い、事、言、と、方、頼、政、乃、と、い、
よ、頼、政、乃、の、事、い、事、言、と、方、頼、政、乃、と、い、

秀衛は嘉應元年鎮守府の將軍

なり又治四年三月七十余り東鑑

平治三年十月あり頼政つとの十となりたる

一秀衛の鳥羽帝の御宇よりん頼政

後見を以て秀考をる秀衛の以て依

中へりる有る一上以十萬

り多る甲よる古をなりるあり

らるありるありるありるありる

ありるありるありるありるありる

他らるありるありるありるありる

ありるありるありるありるありる

ありるありるありるありるありる

ありるありるありるありるありる

ありるありるありるありるありる

ありるありるありるありるありる

ありるありるありるありるありる

ありるありるありるありるありる

ありるありるありるありるありる

料

合ふ所をいふ戦場をいふことゝも
了る事知る

継木弓を何處まで本中へ合ふ事
いふ事

夫木集 弓 天仁二年 顯宗の御令

いふ事 合ふ事 戦場の事 合ふ事
御賢法作

いふ事 合ふ事 戦場の事 合ふ事
お祭 事なる事なる事なる事

物々天仁と

鳥羽帝の御事 合ふ事 戦場の事
いふ事 合ふ事 戦場の事 合ふ事
いふ事 合ふ事 戦場の事 合ふ事
いふ事 合ふ事 戦場の事 合ふ事
いふ事 合ふ事 戦場の事 合ふ事

夫木集 十題五首 亦

いふ事 合ふ事 戦場の事 合ふ事
いふ事 合ふ事 戦場の事 合ふ事
いふ事 合ふ事 戦場の事 合ふ事
いふ事 合ふ事 戦場の事 合ふ事
いふ事 合ふ事 戦場の事 合ふ事

式櫃の木の
 事とかかう
 ちり出たは
 ありんとも十
 五坊のちい
 内の本らふ
 して法あひ
 考あひらけ
 つまやあひ
 ちり出たは
 事

観音草よきけや起る同し指すかおほ
 見たりし相撞固お山の根人のまじい
 つまね木のうね木よきけや起る似し見ちる
 きしあを割ええとちあなりけや起る
 四五よ木理通ふやけおね木の四まの木理と
 橋よけそうお本理あうたけの思きや鋤録の
 柳よけそうおね木の強くしておねをよ
 又橋木を高く老翁のまじいつきの木
 けやあひらけさる一雙は笑天よつんち

指あや首あね日さうよらあおね
 指上へかきさうえ紫甲さくさふおね
 以つよね木の紫い年よ一とあふ指を
 上りあはね見し見ちるあやうと云観
 の字のけやおと初とつげさう字書あね
 指や 指板を櫃おね木の事なまの遠くともあやまらぬ
おね

指よつよけやあふちるお白石とさふ
 能無しならむらあふ

大和國
大安寺
八幡宮
花井功
皇居河
弓

長七尺餘

大和國
法隆寺
藏上宮
太子御
弓

長六尺餘

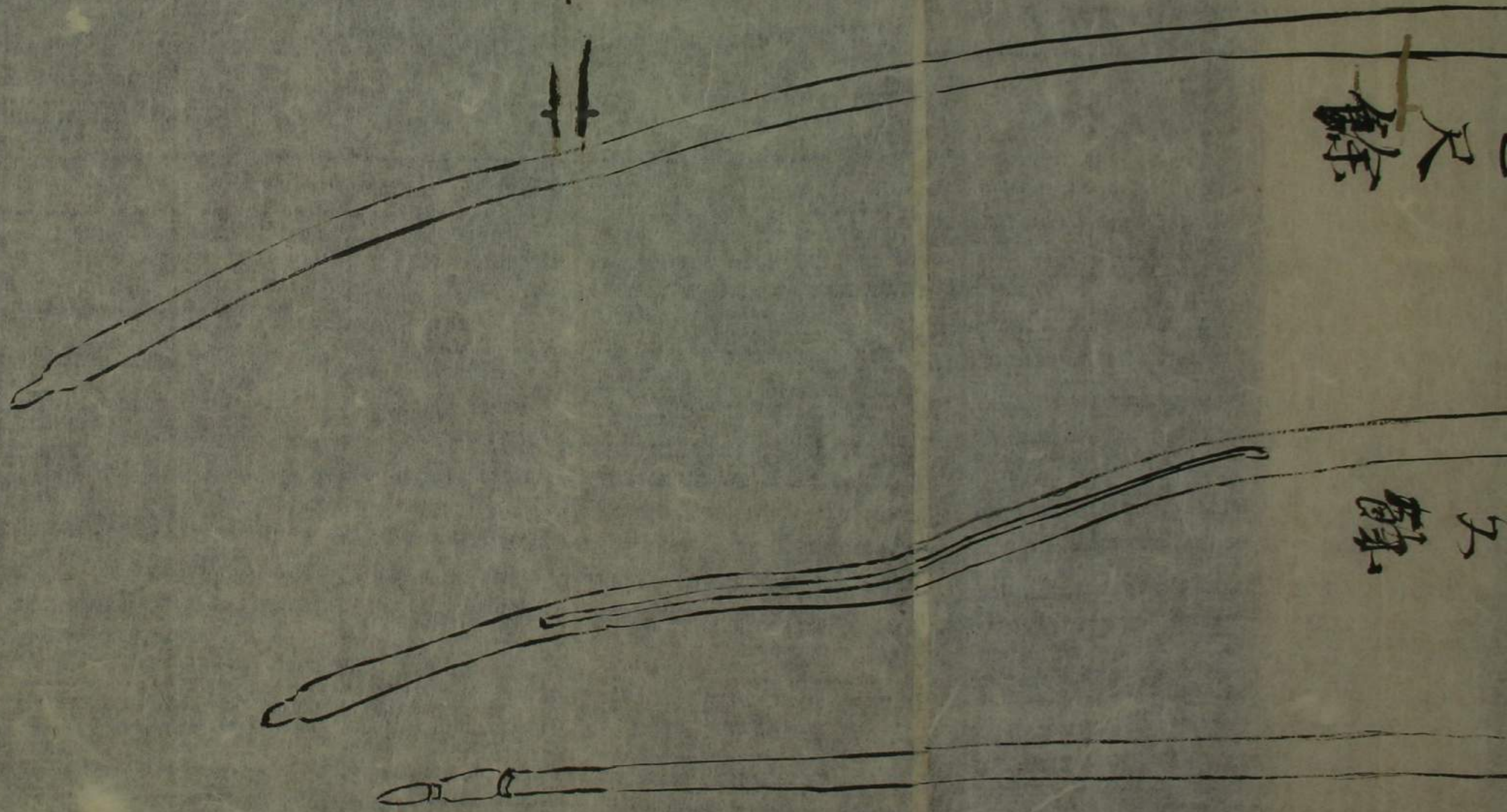
山城國
靜原三
宮山王
花之武
天皇御
弓本造
丹塗重
九十錢

長六尺八寸五分餘

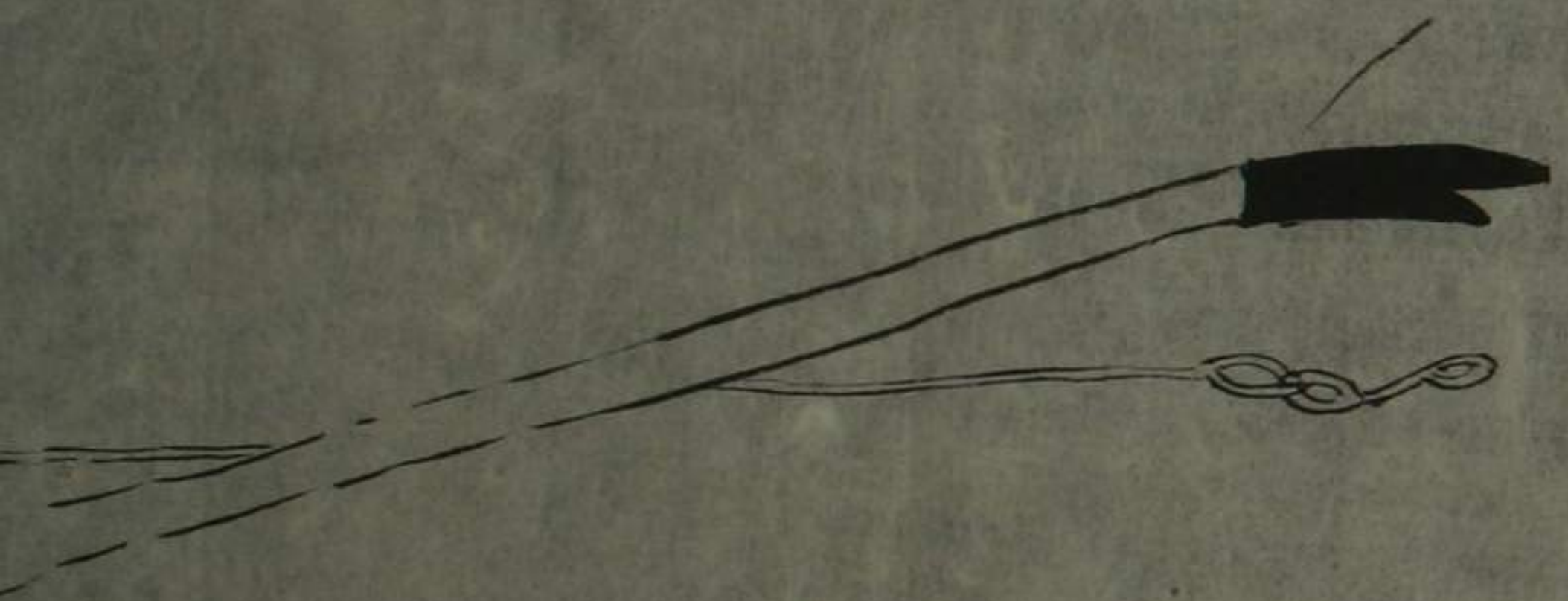
尺餘

子餘

八寸五分餘

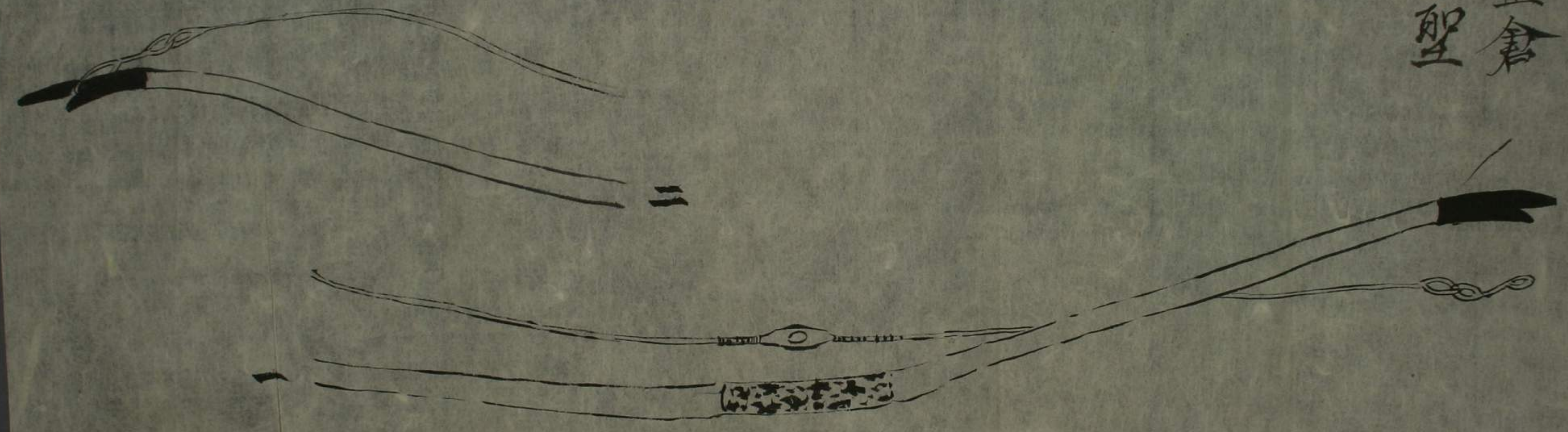


南都东大寺正倉院
淨寶物圖聖
武天皇彈弓
弓長五尺四寸



南都东大寺正倉院
濟寶物圖聖
武天皇彈弓
弓長五尺四寸

右四圖本朝
軍器考圖說



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written on aged, yellowed paper and is oriented vertically. The ink is dark, and the handwriting is somewhat faded and difficult to decipher. The text appears to be a collection of words and phrases, possibly a list or a series of notes. The words are written in a cursive style, with some characters being highly stylized. The overall appearance is that of an old, handwritten document.

後冷泉天皇天長四年丙申遣原賴義討守保
賴時五年丁酉賴時伏討

自天長四年迄文化十二年乙亥七百七十年

高倉天皇白土嘉應元年己丑秀衡為

鎮守府於今此年ヨリ文化十二年乙亥
イタリテ六百四十七年

近衛天皇仁平三年冬原賴政射斃

此年ヨリ文化十二年乙亥六百五十二年
堀河天皇寬治五年 梓 源義家源 武衛 此年ヨリ 近七百 十五年

龍のり記にありし文之類たりしを今又中部家の記にえ
天竺石神弓と作こりし事ありしを定卜、天朝、易の
撃辞貴、帝、木、弦、ウレ、孤、木、と相定上り、又、記に、
弓と鳥號にありし事ありしを定、たし、弓、天朝、
中、り、家、邦、の、人、ら、方、々、ハ、古、今、下、通、有、り、と、
氏、種、を、し、言、弁、せ、り、と、
多、の、事、あり、

六、北、田、原、の、事、を、今、又、記、に、
主、位、傳、の、事、を、今、
田、上、り、

六

